ゼミノート #7

Descent Theory

七条彰紀

2018年12月30日

1 Motivation

(TODO)

2 Definition

定義 2.1

関手 $\epsilon_{\mathcal{U}}$: $\mathcal{F}(U) \to \mathcal{F}(\mathcal{U})$ を用いて以下のように定義する.

- (i) $\epsilon_{\mathcal{U}}$:: equivalence となる \mathcal{U} を of effective descent for \mathcal{F} と呼ぶ.
- (ii) $\epsilon_{\mathcal{U}}$ の像と同型である $\mathfrak{F}(\mathcal{U})$ の対象を、effective data という.

3 Criterion for fpqc Stacks

定理 **3.1** ([2] Lemma 4.25)

S :: scheme, $\mathcal{F} \to (\mathbf{Sch}/S)$:: fibration とする. 以下が成り立つとする.

- (a) $\mathcal F$ は Zariski topology $\mathcal C\mathcal O$ stack $\mathcal C\mathcal S\mathcal S$.
- (b) 任意の flat surjective morphism of affine S-scheme :: $V \to U$ について, $\epsilon_{\{V \to U\}} \colon \mathcal{F}(U) \to \mathcal{F}(\{V \to U\})$ は圏同値.

この時, 牙は fpqc topology での stack である.

注意 3.2

"flat"という条件は以下の証明では利用されない.

3.1 Step 1 / 準備

以前示した命題から、 \mathfrak{F} :: split fibered category と仮定しても一般性を失わないので、以下そのように仮定する.

補題 3.3

 \mathbf{C} を site とし、 $\mathcal{F} \to \mathbf{C}$ を<u>split</u> fibration とする. さらに $U \in \mathbf{C}$, $\mathcal{U} = \{\phi_i \colon U_i \to U\} \in \mathrm{Cov}(U)$ と \mathcal{U} の細分 $^{\dagger 1}$ $\mathcal{V} = \{\psi_{ij} \colon V_{ij} \to U\}$ をとる.

この時, 関手 $R_{\mathcal{U}}^{\mathcal{V}}$: $\mathcal{F}(\mathcal{U}) \to \mathcal{F}(\mathcal{V})$ が存在し,以下は厳密な可換図式である。

(証明).

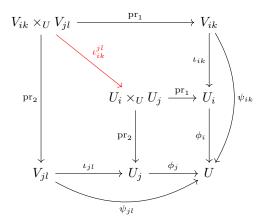
■関手 $\mathcal{F}(\mathcal{U}) \to \mathcal{F}(\mathcal{V})$ の構成. 細分の定義から、各 i,k について以下が可換に成る射 $\iota_{ik} \colon V_{ik} \to U_i$ が存在する.

$$V_{ik} \xrightarrow[\iota_{ik}]{\psi_{ik}} U_i \xrightarrow[\phi_i]{\psi_{ik}} U$$

この射 ι_{ik} を用いて,関手 R_{ν}^{ν} を次のように定義する。

$$R_{\mathcal{U}}^{\mathcal{V}}: \qquad \mathcal{F}(\mathcal{U}) \qquad \rightarrow \qquad \mathcal{F}(\mathcal{V})$$
Objects $(\{\eta_i\}, \{\sigma_{ij}\}) \mapsto (\{(\iota_{ik})^*\eta_i\}, \{(\iota_{ik}^{jl})^*\sigma_{ij}\})$
Arrows $\{\alpha_i\} \mapsto \{(\iota_{ik})^*\alpha_i\}$

ここで ι_{ik}^{jl} は、以下の可換図式のように fiber product の一意性から得られる射である.



 $\{\sigma_{ij}\}$ が cocycle condition を満たすので、 $\left\{\left(\iota_{ik}^{jl}\right)^*\sigma_{ij}\right\}$ も cocycle condition を満たす $^{\dagger 2}$. 同様に $\{(\iota_{ik})^*\alpha_i\}$ が $\mathcal{F}(\mathcal{V})$ の射であることも確認できる.

^{†1} 細分の定義を確認しておく: 任意の V の元 $V_{ij}\to U$ に対して U の元 $U_i\to U$ が存在し, $V_{ij}\to U$ が $U_i\to U$ を通して $V_{ij}\to U_i\to U$ と分解する. 特に射 $V_{ij}\to U_i$ が存在する.

 $^{^{\}dagger 2}$ 証明は fiber product の普遍性から得られる射 $V_{il} imes V_{jm} imes V_{kn} o U_i imes U_j imes U_k$ を用いれば良い.

■対象について $R_{\mathcal{U}}^{\mathcal{V}}\epsilon_{\mathcal{U}}=\epsilon_{\mathcal{V}}$. $R_{\mathcal{U}}^{\mathcal{V}}\epsilon_{\mathcal{U}}$ を計算する. まず $\xi\in\mathcal{F}(U)$ をとり, $R_{\mathcal{U}}^{\mathcal{V}}\epsilon_{\mathcal{U}}(\xi)$ を計算しよう.

$$\begin{split} R_{\mathcal{U}}^{\mathcal{V}} \epsilon_{\mathcal{U}}(\xi) = & R_{\mathcal{U}}^{\mathcal{V}} \Big((\{\phi_i^* \xi\}, \{\sigma_{ij}\}) \Big) \\ = & \Big(\{(\iota_{ik})^* \phi_i^* \xi\}, \left\{ \left(\iota_{ik}^{jl}\right)^* \sigma_{ij} \right\} \Big) \\ = & \Big(\{(\psi_{ik})^* \xi\}, \left\{ \left(\iota_{ik}^{jl}\right)^* \sigma_{ij} \right\} \Big) \end{split}$$

今, ℱ :: split fibered category としているので,

$$\operatorname{pr}_{2}^{*} \phi_{i}^{*} \xi = (\phi_{j} \circ \operatorname{pr}_{2})^{*} \xi = (\phi_{i} \circ \operatorname{pr}_{1})^{*} \xi = \operatorname{pr}_{1}^{*} \phi_{i}^{*} \xi.$$

 σ_{ij} は fiber product の普遍性から得られる $\operatorname{pr}_2^*\phi_j^*\xi$ から $\operatorname{pr}_1^*\phi_i^*\xi$ への同型であるから, $\sigma_{ij}=\operatorname{id}$. このことと $\mathscr F$:: split から $\left(t_{ik}^{jl}\right)^*\sigma_{ij}=\operatorname{id}$ も分かる.まとめると, $R_{\mathcal U}^{\mathcal V}\epsilon_{\mathcal U}(\xi)=\left(\{(\psi_{ik})^*\xi\},\{\operatorname{id}_{(\psi_{ik})^*\xi}\}\right)$. 一方.

$$\left(\iota_{ik}^{jl}\right)^* \operatorname{pr}_2^* \phi_j^* \xi = (\psi_{jl} \circ \operatorname{pr}_2)^* \xi = \operatorname{pr}_2^* (\psi_{jl})^* \xi = \operatorname{pr}_1^* (\psi_{ik})^* \xi = (\psi_{ik} \circ \operatorname{pr}_1)^* \xi = \left(\iota_{ik}^{jl}\right)^* \operatorname{pr}_1^* \phi_i^* \xi.$$

なので、fiber product の普遍性から得られる $\operatorname{pr}_2^*(\psi_{jl})^*\xi$ から $\operatorname{pr}_1^*(\psi_{ik})^*\xi$ への同型は id である。したがって $\epsilon_{\mathcal{V}}(\xi) = \left(\{(\psi_{ik})^*\xi\}, \{\operatorname{id}_{(\psi_{ik})^*\xi}\}\right)$ となり、 $R_{\mathcal{U}}^{\mathcal{V}}\epsilon_{\mathcal{U}}(\xi) = \epsilon_{\mathcal{V}}(\xi)$.

■射について $R_{\mathcal{U}}^{\mathcal{V}} \epsilon_{\mathcal{U}} = \epsilon_{\mathcal{V}}$. $\mathcal{F}(U)$ の射 $\alpha: \xi_1 \to \xi_2$ をとる. すると $\mathcal{F}::$ split なので

$$R_{\mathcal{U}}^{\mathcal{V}} \epsilon_{\mathcal{U}}(\alpha) = \{ (\iota_{ik})^* \phi_i^* \alpha \} = \{ (\phi_i \circ \iota_{ik})^* \alpha \} = \{ \psi_{ik}^* \alpha \} = \epsilon_{\mathcal{V}}(\alpha).$$

注意 3.4

 $\mathfrak F$:: split を仮定しない場合,可換図式が厳密であることを主張できないのは明白であろう.実はさらに,2 圏の意味でも図式が可換にならない.なぜなら自然変換 $\operatorname{pr}_1^*\phi_i^* \to (\phi_i \circ \operatorname{pr}_1)^*$ などが存在する保証がないからである.同型 $\operatorname{pr}_1^*\phi_i^*\xi \to (\phi_i \circ \operatorname{pr}_1)^*\xi$ は ξ 毎に存在が保証されているのみで,それらが自然であることは保証されない.

3.2 Step 2 / single morphism cover の場合に帰着させる.

系 3.5 ([3] p.87)

 \mathbf{C} , 筝 等を補題 (3.3) の様にとる. $\mathcal{U} = \{\phi_i \colon V_i \to U\}, V' = \bigsqcup V_i$ とする. さらに, $f \colon V' \to U$ を \mathcal{U} から誘導される射とする.

このとき、圏同値 $R^{\mathcal{U}}_{V'\to U}$: $\mathfrak{F}(V'\to U)\to \mathfrak{F}(\mathcal{U})$ が存在し、合成

$$\mathcal{F}(U) \xrightarrow{\epsilon_{\{f\}}} \mathcal{F}(V' \to U) \xrightarrow{E} \mathcal{F}(\mathcal{U})$$

が関手 $\epsilon_{\mathcal{U}}$: $\mathcal{F}(U) \to \mathcal{F}(\mathcal{U})$ と厳密に一致する.

(証明). U は $\{U' \to U\} \in Cov(U)$ の細分であるから、補題 (3.3) から明らか.

注意 3.6

ここで、各 ϕ_i が quasi-compact(特に fpqc)であったとしても、誘導される射 $f\colon V'\to U$ が必ずしも quasi-compact でないことに注意する。例えば $\{\operatorname{Spec} k[x_i]\to \bigcup_i\operatorname{Spec} k[x_i]\}_{i\in\mathbb{N}}$ を考えれば分かる。

以上のことに注意すると、我々は次のことを証明することに成る:

主張 3.7

条件 (a), (b) が成り立つならば、以下の条件 (*) を満たす任意の flat surjective morphism :: $f: V \to U$ について、 $\epsilon_{\{f\}}: \mathcal{F}(U) \to \mathcal{F}(f: V \to U)$:: equivalence.

(*) affine Zariski cover :: $U = \bigcup_i U_i$ と、各 i について $f^{-1}(U_i)$ の affine Zariski cover :: $f^{-1}(U_i) = \bigcup_i V_{ij}$ が存在し、 V_{ij} :: quasi-compact かつ $f(V_{ij}) = U_i$ となる.

条件 (*) は U,V :: locally noetherian であるような任意の fppf morphism について成立する ([2] Cor1.1.6).

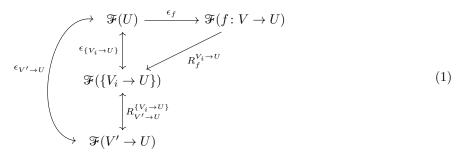
注意 3.8

以下, $\mathfrak F$:: split fibered category とする. session 4.5 定理 1.2 より,このように仮定しても一般性を失わない.

3.3 Step 3 / affine scheme への quasi-compact morphism の場合.

 $f\colon V \to U$ を U :: affine である quasi-compact morphism とする. $\{V_i\}_i$ を V の open affine cover とし、 $V' = \bigsqcup_i V_i$ とおく. V' :: affine なので、仮定 (b) から圏同値 $\mathcal{F}(U) \simeq \mathcal{F}(V' \to U)$ が存在する.

以下の図式 (1) を考える. \leftrightarrow は圏同値を意味する.



ここで関手 ϵ_f は次で与えられる. ただし $\operatorname{pr}_k\colon V\times_U V\to V$ は第 k 成分への射影である.

$$\begin{array}{lll} \epsilon_f \colon & \mathscr{F}(U) & \to & \mathscr{F}(f \colon V \to U) \\ \textbf{Objects} \colon & \xi & \mapsto & (f^*\xi, \sigma) \\ \textbf{Arrows} \colon & \alpha & \mapsto & f^*\alpha \end{array}$$

ここで σ : $\operatorname{pr}_2^* f^* \xi \to \operatorname{pr}_1^* f^* \xi \in \operatorname{Arr}(\mathfrak{F}(V \times_U V))$ は、恒等射 $\operatorname{id}_{\operatorname{pr}_2^* f^* \xi}$ である.これは $\operatorname{pr}_2^* f^* \xi$, $\operatorname{pr}_1^* f^* \xi$ がい ずれも $f \circ \operatorname{pr}_2 = f \circ \operatorname{pr}_1$ による ξ の pullback であることと、 \mathfrak{F} :: split から得られる

この図式の可換性から、関手の同型 $(R_f^{V_i o U}) \circ \epsilon_f = \epsilon_{\{V_i o U\}}$ が得られる($\mathfrak F$:: split fibered category を利用する).(よって上の図式 (1) は可換である.) したがって ϵ_f の psuedo-inverse functor :: $(\epsilon_{\{V_i o U\}})^{-1} \circ (R_f^{V_i o U})$ が得られた.

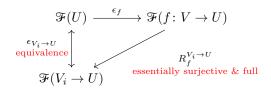
3.4 Step 4 / 条件 (*) を満たす affine scheme への射の場合.

([3] p.88) 仮定 (*) より、Zariski cover :: $\{\iota_i: V_i \to V\}$ が存在し、 V_i :: quasi-compact.

注意 3.9

前段の議論のうち、図式 (1) の $\mathfrak{F}(U) \to \mathfrak{F}(V' \to U)$ が圏同値でない. なので新しい議論が必要である.

補題(3.3)から得られる以下の可換図式を考える.



左にある縦の射は Step 3 から圏同値である. したがって $\mathcal{F}(V \to U) \to \mathcal{F}(V_i \to U)$ (定義はおおよそ関手 E と同様に与えられる) は essentially surjective かつ full である. なのでこの関手が更に faithfull であることが証明できれば、図式の可換性から ϵ_f が圏同値であることが証明できる.

 $\mathfrak{F}(V \to U)$ の射 β,β' が, $\beta|_{V_i}=\beta'|_{V_i}$ を満たすとする.この時, $\beta=\beta'$ を証明すれば良い.まず,以下の厳密な可換図式から,任意の添字 j について $R^{V_i \to U}_{V_i \cup V_j \to U}$: $\mathfrak{F}(V_i \to U) \to \mathfrak{F}(V_i \cup V_j \to U)$ が圏同値だと分かる.この関手を略して R を書くことにする.

したがって R^{-1} が存在する。 関手 R は $\mathcal{F}(V_i \cup V_j \to U)$ の射 $\beta|_{V_i \cup V_j}$ を $\beta|_{V_i}$ に一対一に写すのだから, R^{-1} は $\beta|_{V_i}$ を $\beta|_{V_i \cup V_j}$ に一対一に写す.

さて、以下の関手の合成で β,β' を写す.

$$\mathcal{F}(V \to U) \xrightarrow{R_{V \to U}^{V_i \to U}} \mathcal{F}(V_i \to U) \xrightarrow{R^{-1}} \mathcal{F}(V_i \cup V_j \to U) \xrightarrow{R_{V_i \cup V_j \to U}^{V_j \to U}} \mathcal{F}(V_j \to U)$$

 $\beta|_{V_i}=\beta'|_{V_i}$ を R^{-1} で写して $\beta|_{V_i\cup V_i}=\beta'|_{V_i\cup V_i}$ が得られる. よって, 任意の j について

$$\beta|_{V_j} = (\beta|_{V_i \cup V_j})|_{V_j} = (\beta'|_{V_i \cup V_j})|_{V_j} = \beta'|_{V_j}$$

が成立する. \mathcal{F} :: Zariski stack なので, $\beta = \beta'$.

3.5 Step 5 / 一般の場合.

条件 (*) を満たす任意の射 $f\colon V\to U$ をとり、affine Zarisiki cover :: $\{U_i\to U\}$ をとる.さらに $V_i:=f^{-1}(U_i)$ とおき、 $\phi_i=f|_{V_i}$ とおく. 今、

$$\Phi_i = \epsilon_{V_i \to U_i} : \mathcal{F}(U_i) \to \mathcal{F}(V_i \to U_i)$$

と置く.同様に $\Phi_{ij}=\epsilon_{V_{ij}\to U_{ij}}, \Phi_{ijk}=\epsilon_{V_{ijk}\to U_{ijk}}$ と置く.この時,以下は厳密な可換図式である.

$$\mathcal{F}(U_i) \xrightarrow{\text{res}} \mathcal{F}(U_{ij}) \xrightarrow{\text{res}} \mathcal{F}(U_{ijk})$$

$$\Phi_i \downarrow \qquad \qquad \downarrow \Phi_{ij} \qquad \qquad \downarrow \Phi_{ijk}$$

$$\mathcal{F}(V_i \to U_i) \xrightarrow{\text{res}} \mathcal{F}(V_{ij} \to U_{ij}) \xrightarrow{\text{res}} \mathcal{F}(V_{ijk} \to U_{ijk})$$
(4)

ここで、各 Φ_* はいずれも Step 4 から圏同値である.

次の関手を考える.

$$\begin{array}{llll} P_i \colon & \mathcal{F}(f \colon V \to U) & \to & \mathcal{F}(V_i \to U_i) \\ \textbf{Objects} & (\eta, \sigma) & \mapsto & (\eta|_{V_i}, (\gamma_{ii})^* \sigma) \\ \textbf{Arrows} & \alpha & \mapsto & \alpha|_{V_i} \end{array}$$

同様に P_{ij} : $\mathfrak{F}(f) \to \mathfrak{F}(V_{ij} \to U_{ij})$ を定義する. すると step 4 の結果から $\mathfrak{F}(U_i) \simeq \mathfrak{F}(V_i \to U_i)$ なので, $\xi_i \in \mathfrak{F}(U_i)$ と同型

$$\alpha_i \colon \Phi_i(\xi_i) \xrightarrow{\cong} P_i((\eta, \sigma))$$

が得られる. 上の図式(4)が可換であることから,

$$\alpha_i|_{V_{ij}} : \Phi_{ij}(\xi_i|_{V_{ij}}) = (\Phi_i(\xi_i))|_{V_{ij}} \xrightarrow{\cong} P_{ij}((\eta, \sigma))$$

すると,

$$\alpha_i^{-1}\alpha_j \colon \Phi_{ij}(\xi_j|_{V_{ij}}) \to \Phi_{ij}(\xi_i|_{V_{ij}})$$

 Φ_{ij} :: equivalence なので,この同型射の逆像として σ_{ij} : $\xi_j|_{V_{ij}} o \xi_i|_{V_{ij}}$ が得られる.

以上で得られる $(\{\xi_i\}, \{\sigma_{ij}\})$ は cocycle condition を満たすため(TODO), $\mathfrak{F}(\{U_i \to U\})$ の object である. \mathfrak{F} :: Zariski stack なので,これは $\mathfrak{F}(U)$ と圏同値.よって ξ が得られる.(TODO:射についても)

4 Application : $\mathbf{QCoh}/S \to \mathbf{Sch}/S$ is a fpqc stack.

定義 4.1

 $S \in \mathbf{Sch}$ に対し、圏 \mathbf{QCoh}/S を以下のように定める.

Objects.

 $\operatorname{Fpqc}(S)$ †3の対象 :: U と、U 上の quasi-coherent sheaf (on fpqc topology):: $\mathcal U$ の組. Arrows.

射 $(U, \mathcal{U}) \to (V, \mathcal{V})$ は、 \mathbf{Sch}/S の射 $f: U \to V$ と、morphism of sheaves on $V:: f^{\#}: \mathcal{V} \to f_*\mathcal{U}$ の組.

この時, $\mathbf{QCoh}/S \to \mathbf{Sch}/S$; $(U, \mathcal{U}) \mapsto U$ は fibration である.

 $\mathbf{Mod}_A, \mathbf{Mod}_\phi, \mathbf{Mod}_A \to \mathbf{Mod}_\phi$ の定義は [3] §4.2.1 を参照せよ.

 $f: V \to U$ を flat surjective morphism of S-schemes とし、 $\phi: A \to B$ を f に対応する faithfully flat な 環準同型とする.この時, $\mathbf{QCoh}(U) \simeq \mathbf{Mod}_A$ はよく知られている $^{\dagger 4}$.

 $^{^{\}dagger 3}$ 圏 Sch/S に fpqc topology を備えたもの.

^{†4} この命題は [1] Cor5.5 で詳しく述べられている

主張 4.2

 $\mathbf{QCoh}(f\colon V\to U)\simeq \mathbf{Mod}_{\phi}.$

したがって $\epsilon_f \colon \mathbf{QCoh}(U) \to \mathbf{QCoh}(f \colon V \to U)$ は関手 $\mathbf{Mod}_A \to \mathbf{Mod}_\phi$ に対応する. この関手は、可換環論によって圏同値であることが証明される.

参考文献

- [1] Robin Hartshorne. Algebraic Geometry (Graduate Texts in Mathematics. 52). Springer, 1st ed. 1977. corr. 8th printing 1997 edition, 4 1997.
- [2] Martin Olsson. Algebraic Spaces and Stacks (American Mathematical Society Colloquium Publications). Amer Mathematical Society, 4 2016.
- [3] Angelo Vistoli. Notes on grothendieck topologies, fibered categories and descent theory (version of october 2, 2008). http://homepage.sns.it/vistoli/descent.pdf.